



1. 大学の方針

人材養成の目的【大学全体】

東海学園大学は、勤儉誠実の信念と共生（ともいき）の理念に基づく人間力の向上を核とし、社会の発展と文化の向上に寄与できるよう、総合的教養教育と専門教育を通して幅広い職業人の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）【大学全体】

1. 「知識・理解」

1. 自然と社会と人間とのかかわりに関心を持ち、幅広い知識と教養を身に付けることができる。
2. それぞれの専門分野における基本的な知識を体系的に身に付けることができる。
3. 世界の多様な文化、思想、歴史について幅広く理解することができる。

2. 「汎用的技能」

1. 日本語及び外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、話すことができる。
2. それぞれの専門分野について、問題を発見することができる。
3. 情報・資料の収集、普遍的な尺度や数量的指標を用いた分析、論理的な思考を用いて問題を解決し、その結果を表現することができる。

3. 「態度・志向性」

1. 自分を律して行動し、何事にも誠実に取り組むことができる。
2. 他者から学ぶ姿勢をもち、共に生かし合い仕事や研究を進めることができる。
3. 職業人としての倫理観・使命感・責任感を身に付け、社会に貢献することができる。

4. 「統合的な学習経験と創造的思考力」

卒業論文や卒業研究等の作成を通して、自らが立てた新たな課題を解決することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）【大学全体】

1. カリキュラム（教育課程）は、全学部とも「全学共通科目群」「専門科目群」「演習科目群」の3つの科目群によって構成する。なお、その他に「免許・資格関連科目群」がある。
2. 「全学共通科目群」は、全学部で共通に開講する科目群であり、「ともいき人間教育」「ともいき教養教育」「ともいき実践教育」を柱に、「日本語」「英語」「情報」「身体教育」「外国語コミュニケーション」「キャリア形成」の各分野の科目によって構成する。
3. 「専門科目群」では、各学部の専門分野における「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」の修得・深化をめざす科目を体系的に配置する。

4. 「演習科目群」では、1年次から2年次において幅広い教養の獲得をめざす基礎的演習を開講する。また、3年次から4年次において専門的知識の修得をめざすとともに、4年間の学習成果のまとめとして卒業論文や卒業研究などを作成する演習を開講する。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）【全学共通科目群】

1. 「知識・理解」

1. 「共生」と「勤儉誠実」の考え方を理解し、それらに基づいた人間観や自然観、及び価値観を身に付けることができる。
2. 国際社会の一員としての自覚を持ち、異文化について理解することができる。
3. 人文、社会、自然等の各分野に関連する事柄について、「持続可能な開発目標」（SDGs）をキーワードに体系的・総合的に理解することができる。

2. 「汎用的技能」

1. 日本語を用いて、的確に読み、書き、聞き、話すことができる力を身に付けることができる。
2. 国際社会において、的確にコミュニケーションを図ることができる英語等の語学力を身に付けることができる。
3. 情報通信技術を用いて、情報を入手し、分析し、活用するとともに、有益な情報を社会に発信することができる。
4. SDGsをキーワードに、人が人としてよりよく生きていくために、修得した知識を基に、自ら問題を発見し、科学的、及び総合的に問題を捉え、解決方法を見出す汎用的能力を身に付けることができる。

3. 「態度・志向性」

1. 健康づくりの習慣や、自己管理能力などの態度を身に付け、自分を律し、何事にも誠実に最後まで取り組むことができる。
2. 社会人として責任ある態度を身に付けるとともに、様々な価値観や視点から、柔軟かつ論理的思考を基に行動することができる。
3. SDGsで掲げられている課題に対し、自らの問題として捉え、身近な所から取り組むことにより、持続可能な社会を創造する力を身に付けることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）【全学共通科目群】

1. 「ともいき人間教育」の分野では、仏教の立場から「共生（ともいき）」について考察する。具体的には、環境や他者の存在により自己が活かされていること、自己中心的な在り方の反省、自己能力の惜しみない提供、相互補完の精神などを学ぶ。これらを通して、共生と勤儉

誠実の考え方を身に付ける。

2. 「ともいき教養教育」の分野では、「共生（ともいき）」の精神のもと、人文・社会・自然科学の領域横断的・多面的な思考力を修得し、持続可能な社会発展のため、自分たちに何ができるかを主体的・協働的に問題を発見し、解決する能力を身に付ける。
3. 「ともいき実践教育」の分野では、SDGsをキーワードとした地域社会における実践的な体験や海外留学・研修を通して、多文化共生に対する理解を深め、自ら考え行動する力を身に付ける。また、日本文化を通して歴史や伝統・文化について理解を深めるとともに、SDGsを学ぶ。
4. 「日本語」の分野では、日本語を的確に読み、書き、聞き、話す能力を身に付ける。
5. 「英語」の分野では、日常会話レベルの会話能力を身に付けるとともに、十分な読み、書き能力も身に付ける。また、これからの多文化共生社会で生きるためのグローバルな視点を身に付ける。
6. 「情報」の分野では、情報通信技術を用いて多様な情報を適切に取捨選択し、分析活用する技能を身に付ける。
7. 「身体教育」の分野では、スポーツを通じた健康づくりの習慣や、自己管理能力・チームワーク・勤儉誠実・共生などの態度を身に付ける。
8. 「外国語コミュニケーション」の分野では、各言語での日常会話レベルの会話能力を身に付け、基礎的な読み、書き能力を身に付ける。また、これからの多文化共生社会で生きるためのグローバルな視点を身に付ける。
9. 「キャリア形成」の分野では、職業人として働くことの意義を理解し、社会の発展に貢献する態度を身に付ける。また、ボランティアを通して自主性・主体性を養い、ともに支え合い学び合うことにより社会に貢献する態度を身に付ける。

人材養成の目的【人文学部】

人文学部は、社会や文化を理解し、創造力とコミュニケーション能力を養うことで、地域社会の諸方面で職業人として活動する実践力をそなえた人材の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）【人文学部】

1. 「知識・理解」

1. 人間や人間の営みを理解するために必要な幅広い教養を身に付けている。
2. 創造表現、言語、文化の各分野における基本的な知識・技能を体系的に身に付けている。
3. 日本や外国の多様な文化、思想について幅広く理解することができる。

2. 「汎用的技能」

1. 日本語及び外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、話すことができ、効果的なプレゼンテーションができる。（コミュニケーション・スキル）
2. 適切な言語表現や映像表現を用いた創造的な活動を行うことができる。（クリエイティブ・スキル）
3. 情報を適切に収集・分析し活用するとともに、効果的に発信することができる。（情報リテラシー）
4. 古典から現代文学、マンガ、映像、言語、芸術、歴史、さらには国際文化についての知識や情報を整理し、順序立てて説明することができる。（論理的思考力）
5. 創造表現、言語、文化の各分野における問題を発見するとともに、さまざまな情報に基づいて、専門的な見地からこれらの問題を解決できる。（問題解決力）

3. 「態度・志向性」

1. 自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。（自己管理力・勤儉誠実）
2. 他者から学ぶ姿勢をもち、共に生かし合いながら仕事や研究を進めることができる。（チームワーク・共生）
3. 職業人としての倫理観・使命感を身に付けるとともに、社会に貢献する意欲と目的意識を持ち、国際的感覚をもって行動をとることができる。（倫理観・社会的責任）

4. 「統合的な学習経験と創造的思考力」

卒業研究や卒業制作を通して、自らが立てた新たな課題を解決することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）【人文学部】

人文学部では、社会や文化を理解し、創造力とコミュニケーション能力を養い、地域社会の諸方面で活動できる力をそなえた人材の養成を目的としている。この目的を達成するために、「専門科目群」「演習科目群」及び「免許・資格関連科目群」の3つのカリキュラムを配置する。

「専門科目群」は、「メディア・情報」「創作文芸・マンガ」「日本語・日本文学」「歴史・文化・国際」の4領域に分けられ、それぞれの専門分野についての知識、技能を習得する。「メディア・情報」「創作文芸・マンガ」の2領域では、現代のメディア・情報社会を生きるためのリテラシーと、言語・映像・音声による創造表現や、研究・批評に必要な知識や技能を習得する科目を開講する。創造表現に関する基本的な知識・技法を体系的に学ぶことで、より高度な創造的思考力を身に付けていく。「日本語・日本文学」「歴史・文化・国際」の2領域では、日本や外国の多様な文化、思想、歴史について幅広く理解する科目のほか、日本語や外国語によるコミュニケーション・スキルを習得する科目を開講する。これらの科目を学ぶことで、言語、芸術・歴史、さらには国際文化についての知識や情報を整理し、論理的思考および表現する能力を身に付けていく。

「演習科目群」は、1年次から2年次までの「基礎演習」と3年次から4年次までの「専門演習」で構成される。「基礎演習」では、スタディ・スキル、コミュニケーション・スキルなど、基礎的なスキルを学ぶ。幅広い教養を修得し、専門分野への導入と専門的な学修への基礎作りを行う。「専門演習」は3年次に少人数のゼミに所属し、それぞれの分野で専門的知識・技能の深化を目指していく。4年次には、これまでの創作や学修の集大成として、卒業研究・卒業制作を完成させ発表する。ここで目指すのは、自己表現にとどまらない、他者に感動や影響を与える表現力であり、自らが立てた新たな課題を解決する能力である。

「免許・資格関連科目群」では、中学校・高等学校教諭（国語）、学校図書館司書教諭の免許取得、司書、学芸員、及び日本語教員の資格取得に対応した科目を開講している。